

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	KINETIC RUBY		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル	
RG	2.490	△RG	0.038	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

テストボール： KINETIC RUBY

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール： KINETIC EMERALD

フレアーの幅 インチ

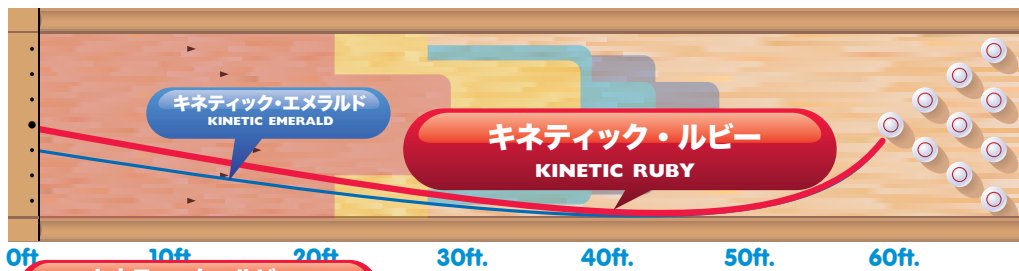
PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

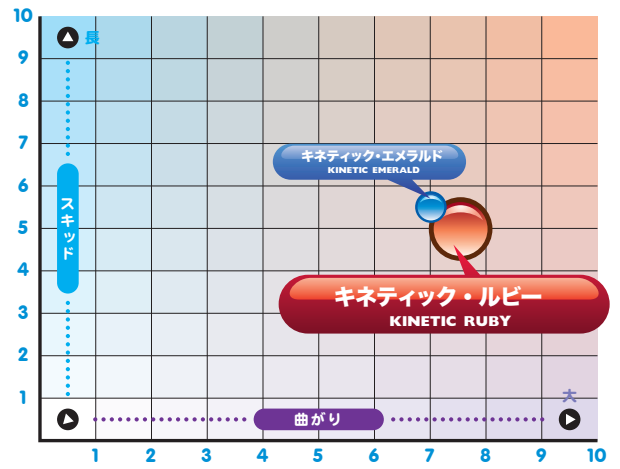
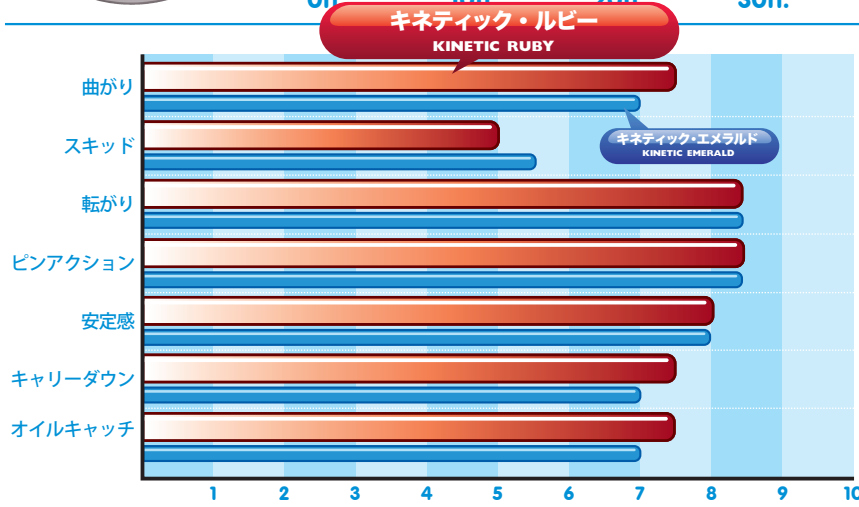
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

TRACK社の代表作とも言えるKINETIC。Modified Kinetic Coreを使用したMx-05を発売以来、約2年ぶりに現代のTechnologyに置き換え発売されたKINETIC EMERALD。世界的にEBI(EBONITE International)のHybrid素材とPearl素材が注目を集める中、Hybridを使用して配色もさることながら今までのTRACKのイメージを変えたのがKINETIC EMERALDでした。これからTRACK社をはじめCOLUMBIA社から発売されるHybrid・Pearl素材からは目が離せなくなります。今回はその第2弾KINETIC RUBYの発売です。

テストングの第一印象はRUBYもHybrid素材ですが、EMERALDよりも粘りがある強いCoverstockを採用しているため、EMERALDと違ったリアクションが得られることです。EMERALDはキャッチの中にもスキッドがあり、Backendで俊敏なやや過激さを感じる明確な動きが特徴でした。一方RUBYはEMERALDよりもやや曲がり始めは早く感じ、そこから持続的な曲りを経て柔らかくキレルイメージがありました。やはりEMERALDよりもキャッチが強くなった分だけ曲がり始めも早くなっていますが、曲がり始めてから曲り終わりのような失速感はなく、“持続的な曲がり感”が扱いやすさと安定した曲りを得られていると思います。それでいてダラダラと曲がるようなイメージではないのがRUBYは優れていて、初代KINETICを気に入って使われた方は、このRUBYの本質を見抜かれることでしょう。Medium Light領域でベンチマークな役割と認知をされているKINETICですが、攻撃的に攻めるEMERALDか安定したポケットヒットのRUBYかはボウラーが“何を望むのか”に委ねられるでしょう。でも“この領域はKINETICである”。それだけは今も昔も変わりません。

特記事項

KINETIC EMERALDとはまた一味違ったパフォーマンスでこの領域の最高峰を目指します。Medium Light領域でベンチマーク的な位置づけでお使いください。